

令和3年度学校自己評価システムシート(埼玉県立越谷特別支援学校)

目指す学校像	一人一人の児童生徒の豊かな成長を支援し、保護者と地域の信頼に応える学校
--------	-------------------------------------

重点目標	1 12年間を見通した教育課程の編成と、児童生徒一人一人を大切にした教育活動を行う。 2 肢体不自由特別支援学校として、保護者と地域に信頼される学校づくりを行う。 3 安心安全な教育環境づくりと、その基盤としての教育力を高める教員集団づくりを行う。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	学校関係者 事務局(教職員)	名 名
-----	-------------------	--------

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年度評価(2月1日 現在)		
年 度 目 標					年度評価(2月1日 現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	○一人一人の障害の実態に対応している と学校関係者から意見をいただいております。 おおむね良好と思われる。今後も、R- PDCA サイクルに基づき、児童生徒一人 一人の自己実現を支える授業づくりを進 める必要がある。 ○学習指導要領の改訂、GIGA スクール 構想、BYOD に対応した児童生徒の学び を豊かにする授業づくりが必要である。 ○本校は、小、中、高、寄宿舎があり、社 会自立に向けて学習面、生活面を体験的 に学べる。卒業後の進路実現に向けて、 小学校段階から社会に巣立つまでの系統 的な進路指導を、段階的に進める必要が ある。	(1)主体的・対話 的な深い学びに よる授業づくり と評価を实践し、 児童生徒の自己 実現を支える。	①研究部、自立活動部、教育課程 検討委員会が連携し、児童生徒一 人一人の実態に応じた「主体的・ 対話的で深い学び」を支える授業 づくりに取り組む。 ②研究部、情報教育部が連携し て、ICTを活用した授業づくりに取 り組む。	①児童生徒の適切な実態把 握に基づいた「主体的・対話的 で深い学び」に向けた授業実 践、評価、改善に取り組めた か。 ②ICTの活用について、研究 授業、研究協議を通して、共 通理解を深め、授業づくりに取 り組めたか。			
		(2)12年間の系 統的な進路指導 と外部講師の活 用に取り組む。児 童生徒の自己実 現を支える。	①進路指導部を中心に、進路の手 引きを作成し、各学段階での活 用に取り組む。 ②外部講師の専門的な知識、技能 を活用した授業づくりに取り組む。	①進路の手引きを基に、各学 部段階に応じた進路指導はで きたか。 ②外部講師を活用した授業を 実践し、児童生徒の学びを深 めることはできたか。			
2	○保護者、地域からの相談、障害に応じ た支援については、地域に根差した組織 的対応、支援が大切である。 ○支援籍学習、交流及び共同学習、寄宿 舎の活動、地域連絡会を実施し、地域と ともに歩む教育活動を進める必要がある。 ○児童生徒を支える支援者として、学校、 保護者、地域が連携して教育活動を進め ることは大切である。学校からの情報発信 の在り方を検討し、情報発信力を向上す る必要がある。	(1)特別支援教 育のセンター的機 能を発揮、活用 し、地域と連携し た学校づくりを行 う。	①地域への教育相談、巡回支援を 適切に行ったり、他校からの巡回 支援を活用したりして、児童生徒 への支援方法の充実に取り組む。 ②各学部、支援部を中心に、支援 籍学習、交流及び共同学習、寄宿 舎の活動を計画し、地域とともに学 ぶ教育に取り組む。	①特別支援学校のセンター的 機能を発揮したり、活用したり して、支援方法を充実させるこ とはできたか。 ②地域の中で、障害のある子 もない子どもともに学ぶ教育活 動を進めることはできたか。			
		(2)教育活動の 実践や情報を発 信し、地域の信頼 に応える学校づく りを行う。	①ホームページを活用して、教育 活動の指導実践や教育に関する 情報を迅速に発信する。 ②PTA、地域の人材を活用し、地 域の協力を得ながら教育活動の充 実に取り組む。	①学校の教育活動の実践と教 育に関する情報を、発信する ことができたか。 ②PTA、地域の方々に協力を 得ながら教育活動に取り組む ことができたか。			
3	○安心安全は何よりも重要であり、新しい 生活様式を取り入れた新型コロナウイルス 感染防止対応など、組織的な対応を整 え、安心安全な学校づくりが大切である。 ○災害、緊急時を想定した訓練により、児 童生徒の安心安全を担保できるように、組 織的な対応が大切である。 ○教員の専門性の向上は、何よりも望ま れることなので、スキルアップのための意 識づけを積極的に行うよう、学校関係者か ら意見をいただいた。 ○教職員の心身の健全が教育の根幹とな るため、心身の健康と時間の使い方につ いて学校関係者から意見をいただいた。	(1)児童生徒にと って、安心安全な 教育環境を整え る。	①新型コロナウイルス対策委員会 を中心に、ガイドラインを作成し、 安心安全な教育環境づくりに取り 組む。 ②緊急対応訓練、救急法講習会、 不審者対応訓練、引き渡し訓練を 行い、児童生徒への支援を組織で 取り組む。	①ガイドラインの作成、適切な 運用と情報発信、適時の改訂 はできたか。 ②緊急時、災害時も組織的に 対応し、児童生徒への支援方 法を共有することはできたか。			
		(2)教員の専門 性を向上し、元気 な教職員集団が 指導する環境を 整える。	①分掌組織を生かした研修会、授 業実践、学校支援訪問を通して、 専門性の向上に取り組む。 ②「チーム越谷特別支援学校」とし て、つながりを意識した教育活動 を実施する。	①授業実践、研修会、学校支 援訪問を通して、専門性を高 めることはできたか。 ②各学部、類型、分掌、委員 会、寄宿舎等が連携した組織 的な取り組みはできたか。			

学 校 関 係 者 評 価		
実施日 令和 年 月 日		
学校関係者からの意見・要望・評価等		